

授業実施評価レポート

2022年度 基盤教育センター

1. 2021年度の状況

① 成績評価アンケート

全学共通科目の成績評価アンケートの結果は、全学部全学科において95%以上の学生が透明性・客観性・妥当性・公平性の全てにおいて不足する科目がないと回答しており、概ね良好であったと思われる。しかし、人間社会学部の4年生において無回答が多かったため、今後は正確な結果が導き出せるような工夫・指導が必要であると考えている。また、人間形成学科の4年生において、「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答した学生が1名いた。1名ではあるが、「いくつもあった」と回答していることについては、今後検討する必要があると考えている。

社会福祉学科と人間形成学科において、教養演習に関して、成績方法の判定や教員ごとに授業内容が異なるなどの記述が見られたので、今後検討する必要があると思われる。

さらに、自由記述において、憲法および政治学に関するコメントがあり、担当教員へ確認の必要性が指摘されていた。「憲法」については、人間形成学科2年生より「15回授業の内容が全範囲であり、試験はノート持ち込み可ではありますが、大事な所をノートに取って望んだのに、授業中等話も聞かずにプリントを丸写しして望んだ人の方が成績が良くプリントを全部ノートに写した方が良かったのかと納得がいかなかったです。(原文のまま)」というコメントがあった。それに対し、担当教員に対して、基盤教育センター教員がアンケート結果の報告と状況確認を行ったところ、「プリントとは授業の提示資料を印刷したものであり、試験範囲はその全体であることを明示している、また授業中のおしゃべり等受講態度については現在も対処しており目立って受講態度の悪い学生を放置していることはなく、今後も継続して留意し、授業態度からくる不公平感には気をつけたい。」という回答を得た。したがって、センターとしては特に大きな問題は生じておらず、格段の対処は行う必要はないと判断した。さらに、「政治学」については、「コロナ感染が怖いのでオンライン授業申請をしたが、何度も教室に来るように強いられた。(卒業生)(原文のまま)」というコメントがあった。それに対し、担当教員に対して、基盤教育センター教員がアンケート結果の報告と状況確認を行ったところ、「科目担当教員は対面授業を求める発言をした記憶がないが、誤解される発言がないよう注意していきたい。」とのことであった。したがって、センターとしては特に対処を行う必要はないと判断した。

② 成績分布及び受講者数

教養科目は選択必修だが、受講者が 200 名を超える科目がある一方、20 名を下回る科目(数学概論、物理学)も見受けられた。科目の必要性や妥当性について確認したところ、科目の必要性は確認できたが、過去 5 年間の受講者数に大きな差はないことから、今後受講生を増加させる対策を考える予定である。

成績に「不可」が多い科目は特に多くなかったが、受講生の 1 割が不可となった科目が 2～3 科目あり、確認したところ受講者数が少ないため、若干名の不可で割合が多い形となったためであり、問題ないと判断した。

成績 S の割合が 3 分の 2 程度の科目は以下の 2 科目で、そのうち 75%を超えている科目(下線)も 1 科目あった(「哲学」「日本近現代史」)。評価方法や成績評価方針について確認をとったところ、「哲学」に関しては、今後、評価方法を再検討することとなった。「日本近現代史」については、2021 年度のみ例年と若干異なることであったので、大きな問題はないと判断した。

成績 A の割合が、「倫理学」(84.1%)、「アート論」(95.7%)、「性教育学」(71.6%)、「入門・数字で見る日本社会」(68.6%)の 4 科目で特に高く、成績評価に偏りが見られた。そこで、評価方法や成績評価方針について特に多い 2 科目について確認をとったところ、「倫理学」に関しては、今後、評価方法を再検討することとなった。アート論については、受講者数や科目の特異性から、問題ないと判断した。

情報処理科目において、S と A の成績者のみで 8 割を超える科目が 8 科目中 7 科目あった。そのうち 1 科目では、S と A の成績者のみで 9 割を超えていたため、評価方法や成績評価方針について確認を取ったところ、情報処理の基礎を教える科目であり、科目の性質上問題ないと判断した。

健康科学科目では、S と A の成績者のみで 8 割を超える科目が 2 科目あり、2 科目とも「形成・女子」であったが、「形成・女子」の能力が優れていたもので問題ないと判断した。また、「保健理論」は、S 評価が 85.8%と 8 割を超えており、A 評価と合わせると、91.5%となったが、評価方法や成績評価方針に偏り等がないことを確認できたので、問題はないと判断した。

教養演習では、19 名の担当者で、S 評価と A 評価で 9 割を超えていたが、科目の特徴や性質上問題ないと判断した。

2. 2021 年度レポート対応プランの結果

2021 年度レポート対応プランにおいて、語学以外の対応プランはなかった。

3. 対応プラン

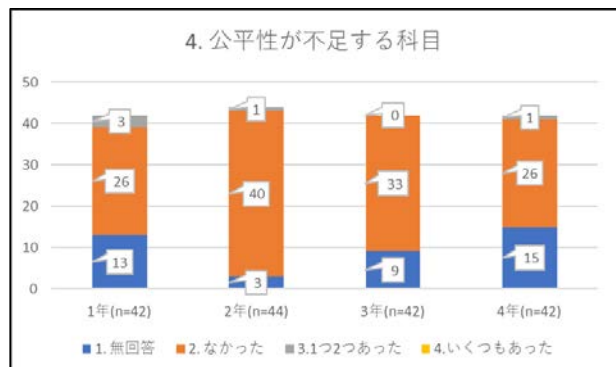
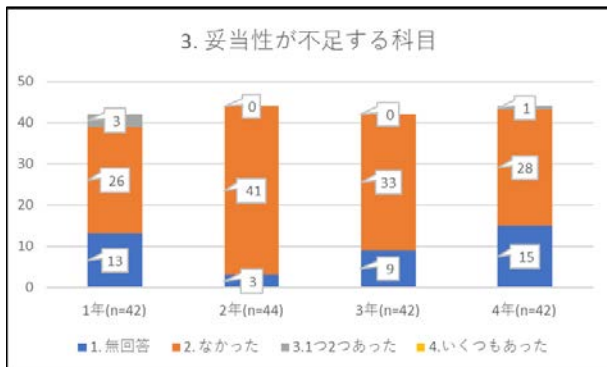
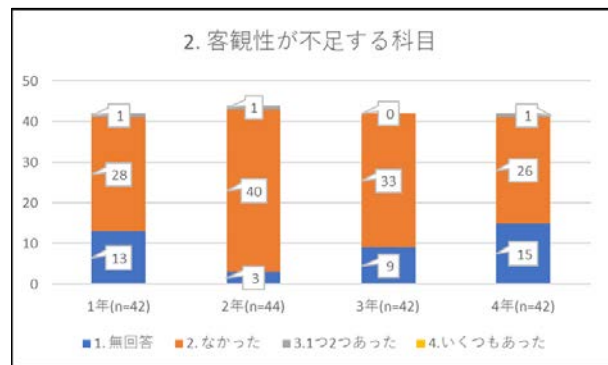
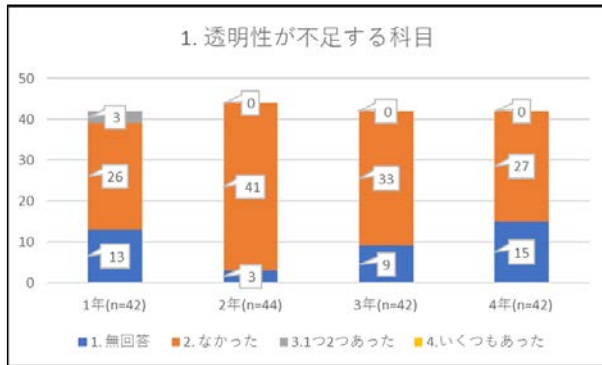
- ① 憲法および政治学において、特異的なコメントがあったため、担当教員に確認し、その回答から、特段の問題はないと判断した。ただし、このようなコメントも、学生の生の声であり、真摯に受け止め、講義の改善に努めるように教員間でコメント内容等を共有する予定である。
- ② 自由記述において「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答した学生が 1 名いた。1 名ではあるが、「いくつもあった」ということから、今後教養科目の改善に向けて検討したいと考えている。
- ③ 科目の性質に関わりなく S 評価に大きく偏る科目や、S と A 評価が 8 割を超える科目については、授業内容の難易度を引き上げて偏りが生じないように、再度センター内の担当教員間で周知する。また、教養演習などの基礎的知識や技術を学ぶ科目に関しては、成績方法の判定や教員ごとに授業内容が異なるなどの記述が見られたので、教員間での偏りなどがないように、教員間の情報交換の場を設け、周知改善する予定である。

添付資料

- ・成績評価アンケート結果
- ・科目成績分布及び受講者数

公共社会学科成績評価アンケート結果報告

1.全学共通科目成績評価アンケートの結果



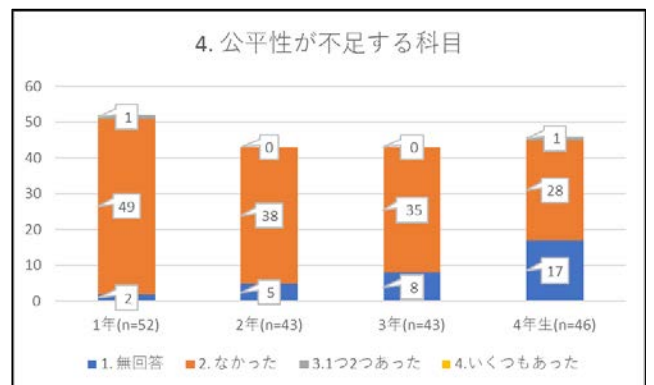
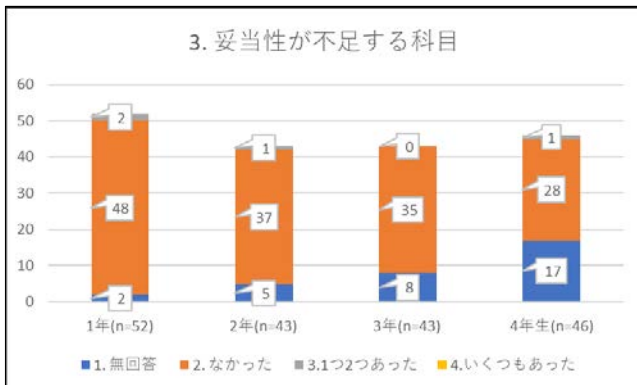
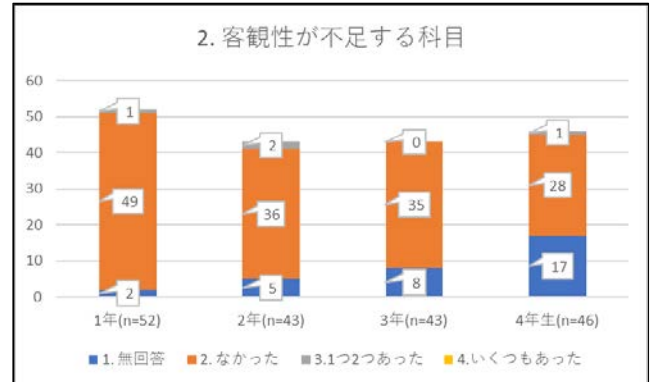
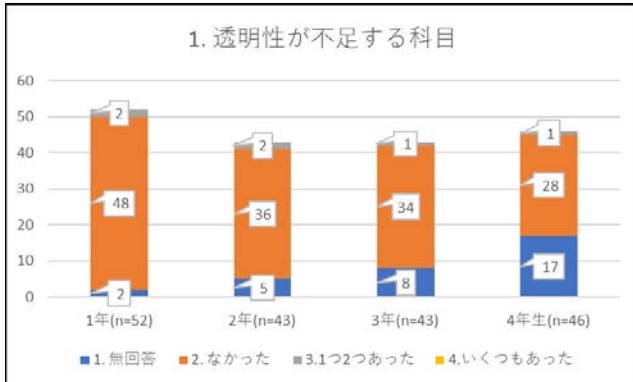
2.結果について

公共社会学科では、全学共通科目において「いくつも不足する科目があった」との回答は0でした。4年生に関しては、約36%の学生が無回答でしたので、正確な判断はできないと思われます。2年生では、「無回答」が少なく、また約93%が4項目において「なかった」と回答しています。「1つ2つあった」との回答は、1名となっています。1年生においては、13名が「無回答」でした。また3名が「1つ2つあった」との回答でした。4年生と1年生に無回答が多いため、今後は正確な結果が導き出せるように指導してください。

検討してほしい科目についての記載は特にありませんでした。

社会福祉学科成績評価アンケート結果報告

1.全学共通科目成績評価アンケートの結果



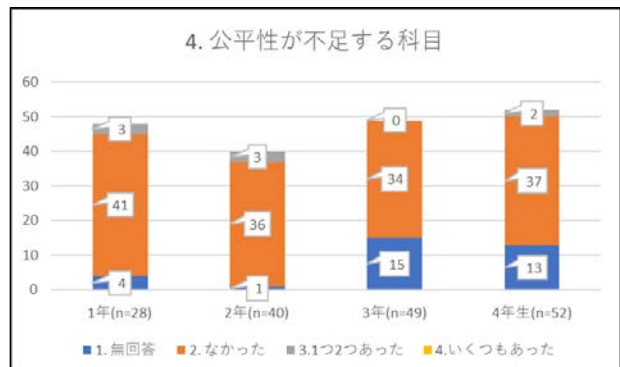
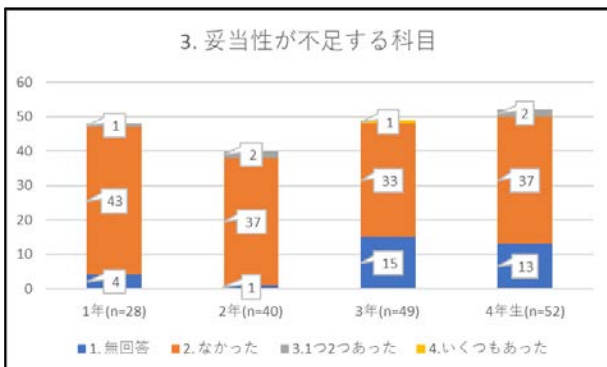
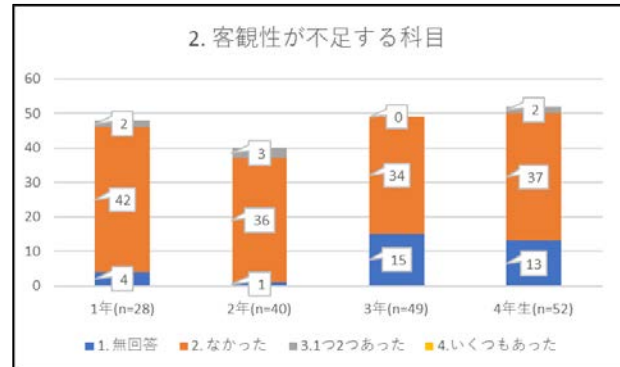
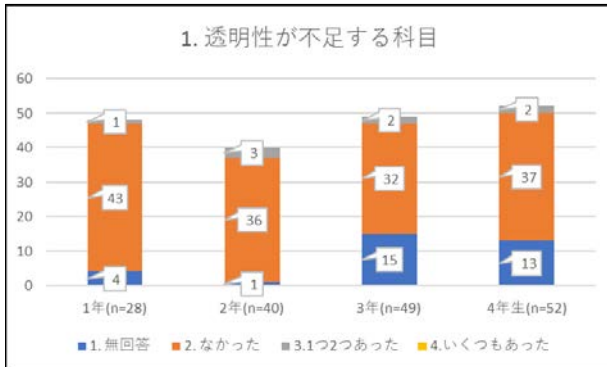
2.結果について

社会福祉学科では、全学共通科目において、「いくつも不足する科目があった」との回答が0でした。4年生に関しては、約37%の学生が無回答でしたので、正確な判断はできないと思われます。1年生では、約94%が4項目において「なかった」と回答しています。「1つ2つあった」との回答は、1~2名となっています。

検討してほしい科目については、教養演習と政治学が挙げられています。教養演習に関しましては、担当教員で情報を共有し再度確認してください。政治学に関しましては、担当教員に確認をお願いします。両科目とも見直す点がありましたらご検討をお願い致します。

人間形成学科成績評価アンケート結果報告

1.全学共通科目成績評価アンケートの結果



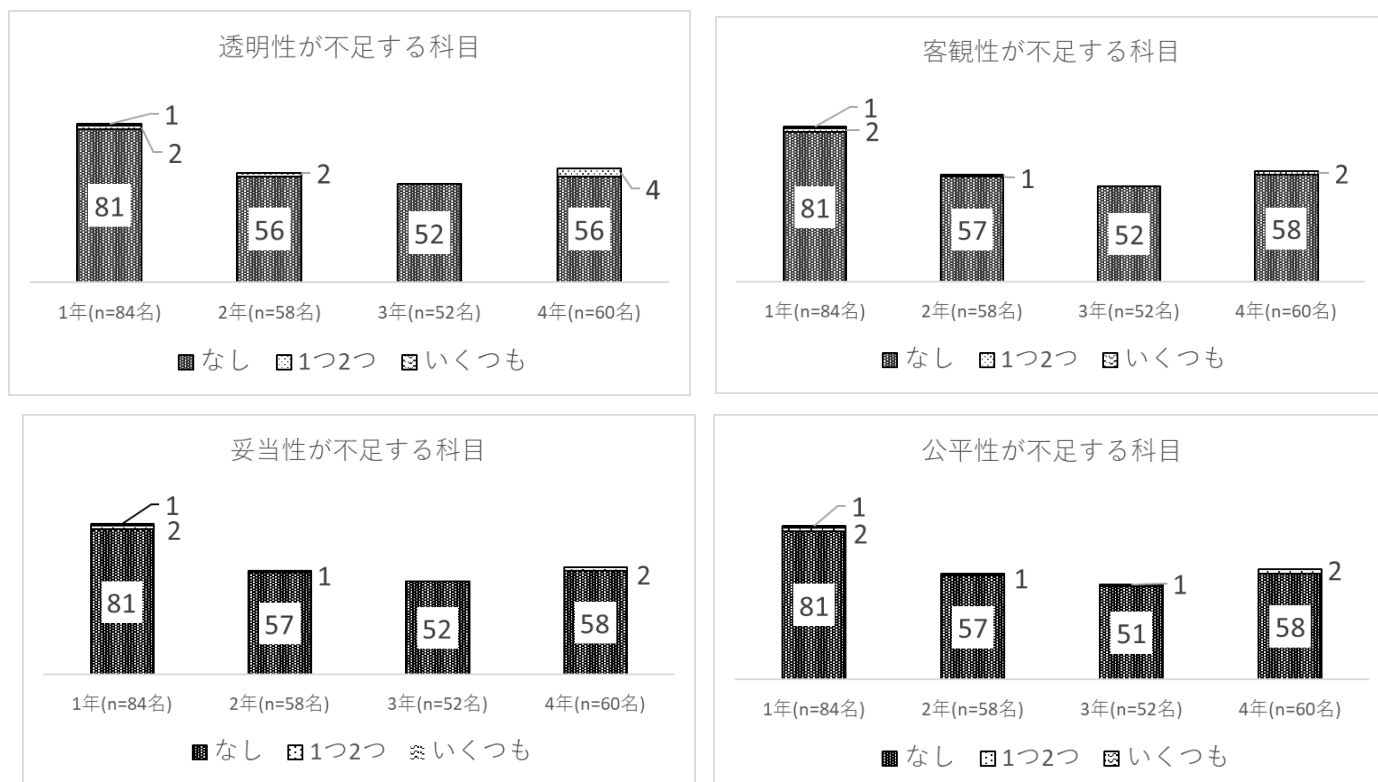
2.結果について

1. 全学共通科目において「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答した学生が1名（3年生）いました。1名ではありますが、「いくつもあった」ことは、今後検討する必要があると考えられます。また、「1つ2つあった」と回答した学生が、4項目のすべてに1~3人いました。3年生と4年生では、「無回答」の学生が25~30%と4分の1以上いたことから、基盤科目への関心を持ってもらうことが必要であると思われます。

2. 自由回答では、特に「教養演習」で担当教員によって授業内容が異なるとの指摘がありましたので、今後は基盤教育センター会議で内容や進め方を確認する必要があると考えられます。

看護学科成績評価アンケート結果報告

1.全学共通科目成績評価アンケートの結果



2.結果について

1. 全学共通科目の評価については、いずれの項目もほとんどの学生が不足する科目はないと回答していました。しかし、透明性、客観性、妥当性、公平性全ての項目でいくつもの科目で不足していると感じている学生がいました。(自由記述の内容では1科目が挙げられていました)。
2. 学生別にみると、不足する科目がないと回答したものが90%に満たなかった項目はありませんでした。ただし、1年生で透明性、客観性、妥当性、公平性全てで、不足する科目がいくつも/一つか二つあると感じている学生がいました。2年生が4項目で、3年生が1項目(公平性)で、4年生が4項目で、一つか二つあると感じている学生が数名ずついました。
3. 以上の結果から、ほとんどの学生が成績評価に対して概ね納得していると考えられました。
4. 自由記述で複数の意見が出ている科目については、現状を確認し改善の必要性の有無を検討していただきますよう求めます。

2022 年 8 月 25 日

基盤教育センター殿

教務共通教育部会長

上野 行良

基盤教育科目における教養科目および基礎科目（情報処理ならびに健康科学）の
受講者数及び成績結果状況報告

2022 年度の基盤教育センターの教養科目等の各科目の受験者及び成績結果をお知らせいたします。

結果について

1. 教養科目は選択必修ですが、受講者が 200 名を超える科目がある一方、20 名を下回る科目も見受けられます。科目の必要性や妥当性について確認してください。また多くの受講が望まれる科目である場合、対策等をとられてください。
 2. 成績に「不可」が多い科目は特に多くありませんでしたが、受講生の 1 割が不可となった科目が 2~3 科目ありました。対策が必要かどうか検討してください。
 3. 成績 S の割合が 3 分の 2 程度の科目は以下の 2 科目で、そのうち 75%を超えている科目（下線）も 1 科目ありました。評価方法や成績評価方針について確認をしてください。
「哲学」「日本近現代史」
 4. 成績 A の割合が、「倫理学」（84.1%）「アート論」（95.7%）、「性教育学」（71.6%）、「入門・数字で見る日本社会」（68.6%）の 4 科目で特に高く、成績評価に偏りが見られます。評価方法や成績評価方針について確認をしてください。
 5. 情報処理科目において、S と A の成績者のみで 8 割を超える科目が 8 科目中 7 科目あります。そのうち 1 科目では、S と A の成績者のみで 9 割を超えています。評価方法や成績評価方針について確認をしてください。
 6. 健康科学科目では、S と A の成績者のみで 8 割を超える科目が 2 科目あり、2 科目とも「形成・女子」のものでした。また、「保健理論」は、S 評価が 85.8%と 8 割を超えており、A 評価と合わせると、91.5%となります。評価方法や成績評価方針に偏り等がないか確認をしてください。
 7. 教養演習では、19 名担当者で、S 評価と A 評価で 9 割を超えています。科目の特徴も考慮しながらも、評価方法や成績評価方針について確認をしてください。
- * 本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合、これで妥当であることを説明できるようにしてください。また、変更した方が良い点がある場合は、具体的な対策を立てられてください。

添付資料

(1) 基盤教育センター 教養科目全体の成績分布

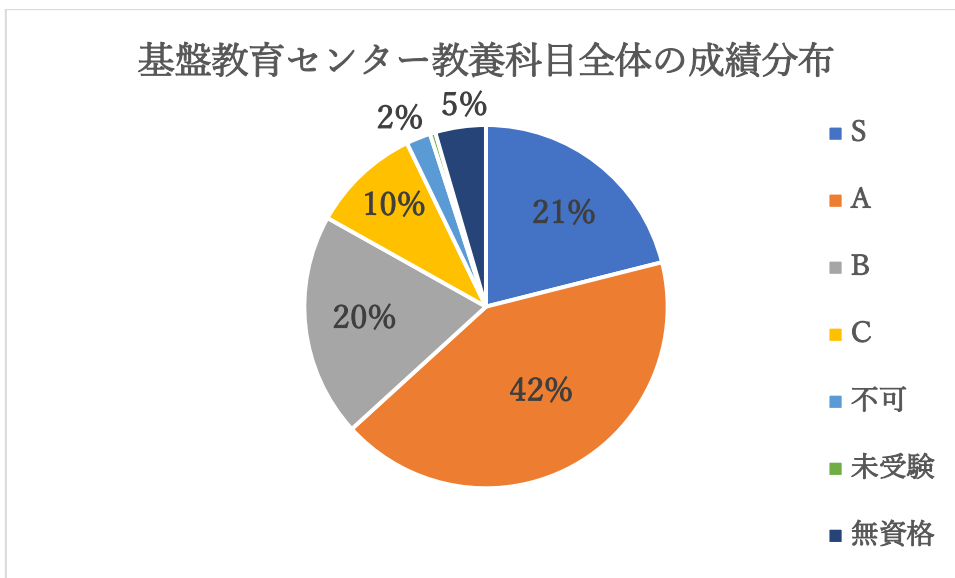


図1 基盤教育センター 教養科目全体の成績分布

(2) 基盤教育センター 情報処理科目の成績分布

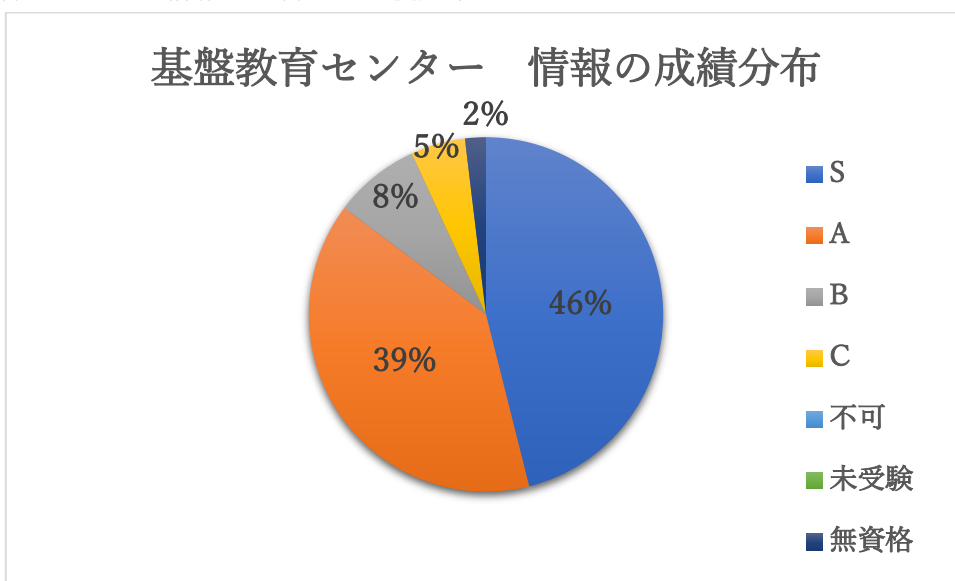


図2 基盤教育センター 情報処理科目全体の成績

(3) 基盤教育センター 健康科学の成績分布

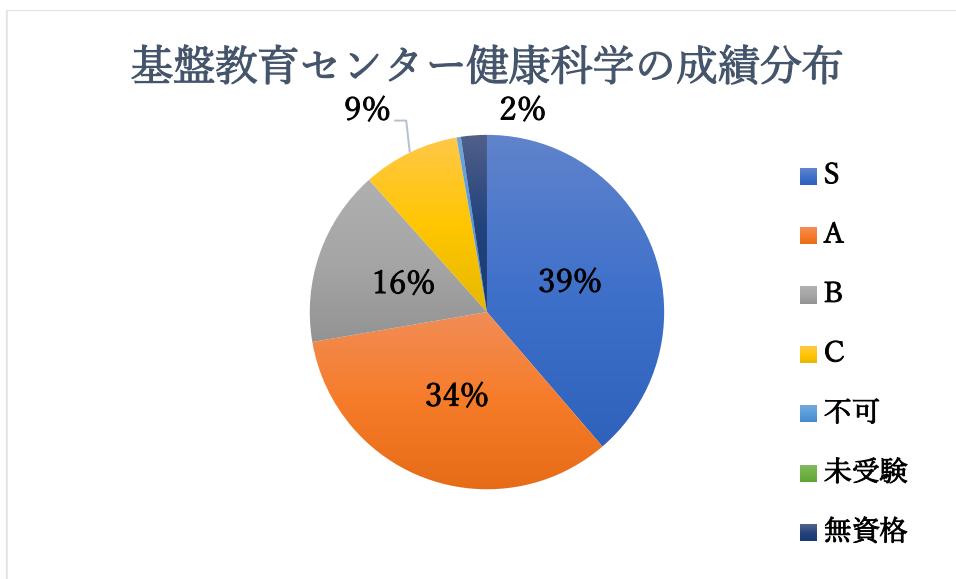


図3 基盤教育センター 健康科学全体の成績分布

(4) 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミ全体の成績分布

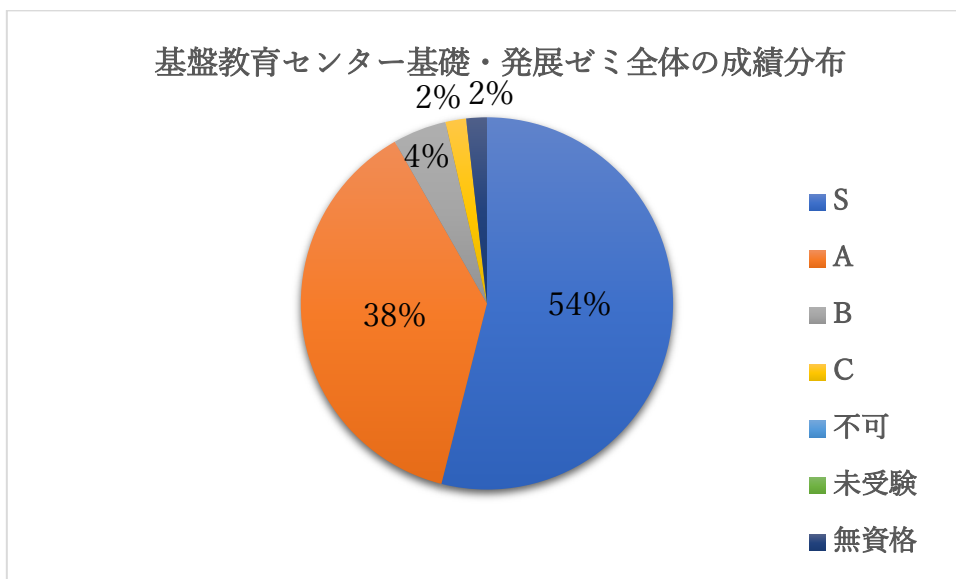


図4 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミ全体の成績分布

(5) 各授業の成績分布

① 教養科目

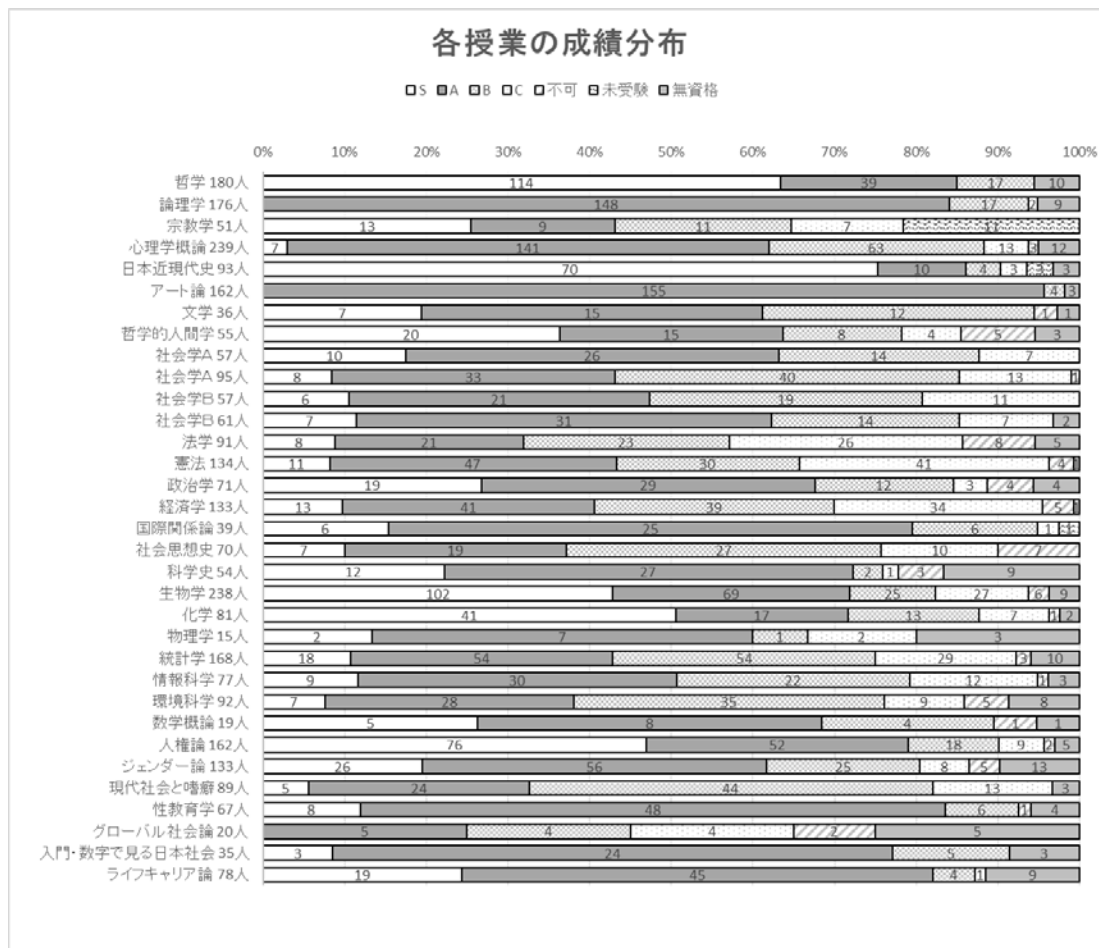


図5 基盤教育センター 教養科目の成績分布

② 情報処理科目

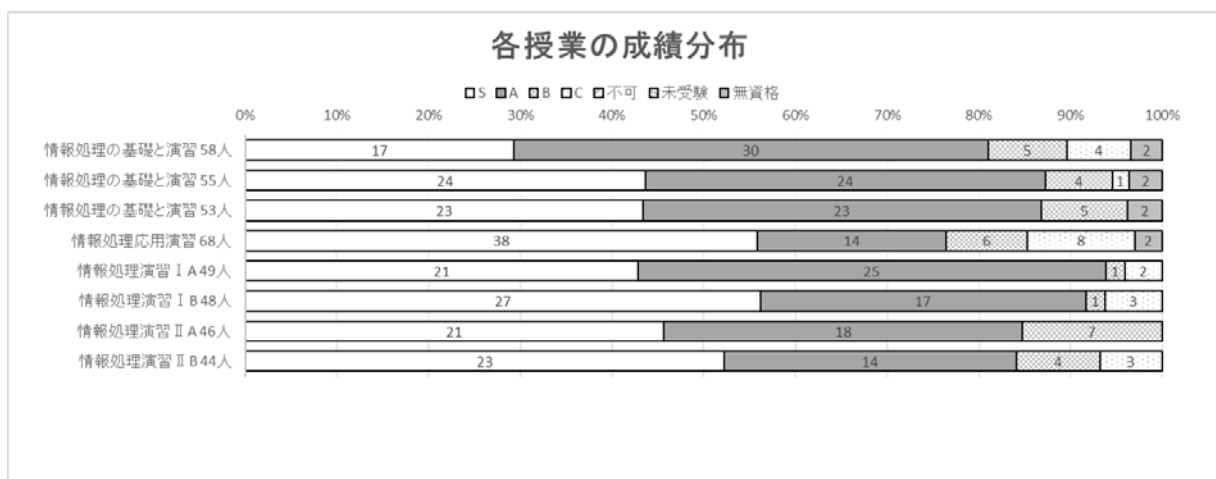


図6 基盤教育センター 情報処理科目の成績分布

③ 健康科学科目

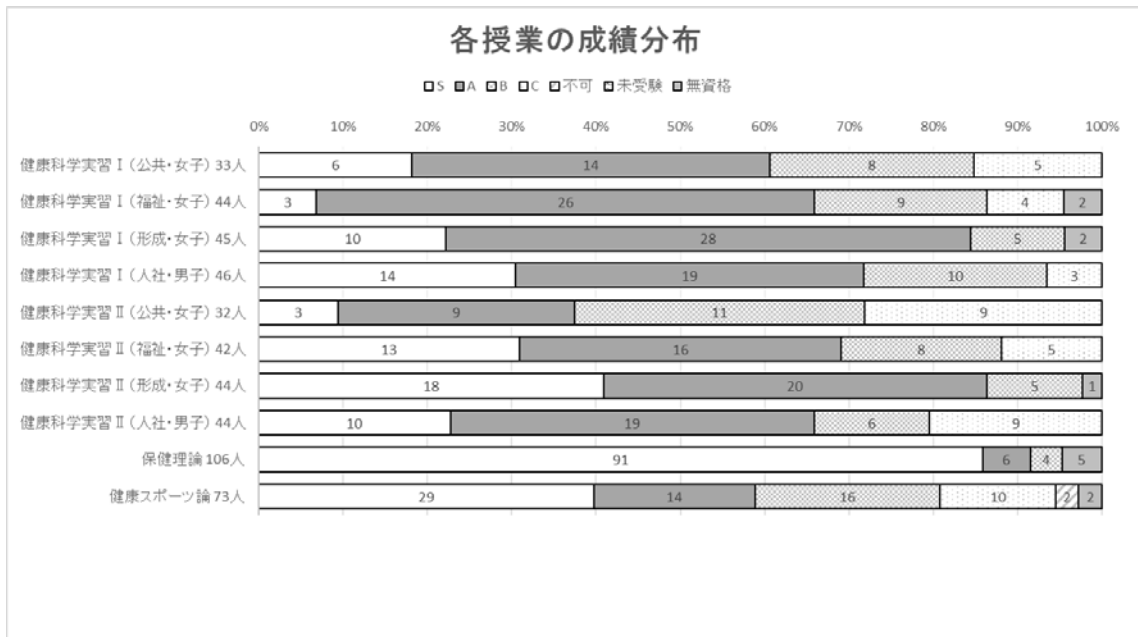


図7 基盤教育センター 健康科学科目の成績分布

④ 基礎ゼミ・発展ゼミ

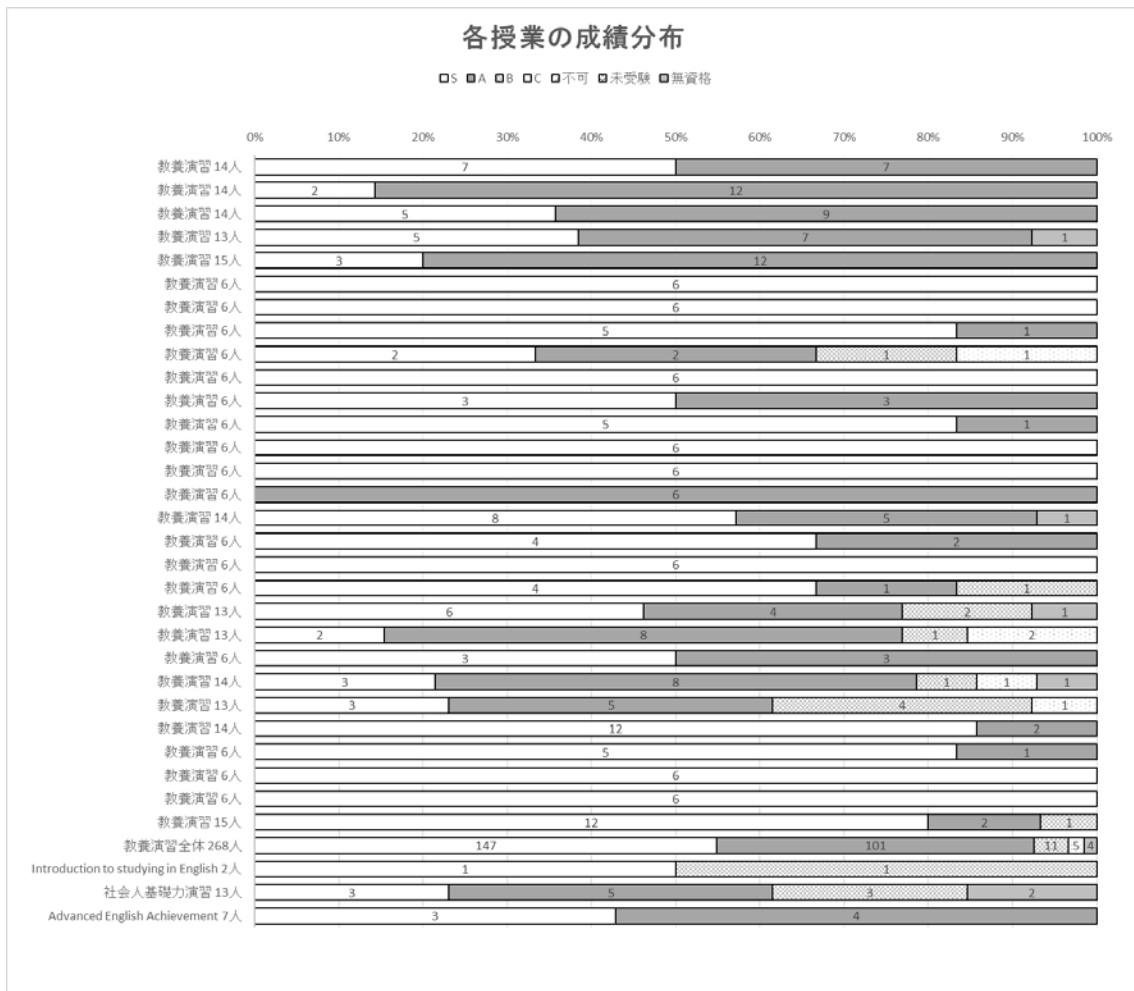


図8 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミの成績分布

授業実施評価レポート

2022 年度 基盤教育センター「外国語科目」

1. 2021 年度の状況

①成績評価アンケート

看護学部の科目であるオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱの評価基準が不透明であるとの指摘があり、検討が求められた。両科目の自由記述において、「日本語が話せる人をもう一人つけるべき。どのような基準で評価されているのかわからない。評価に不公平さを感じる。評価基準が不透明である。課題提出していても評価が低い」というコメントがあった。

検討の結果、担当教員（非常勤講師）に対して、専任教員がアンケート結果の報告と状況確認を行った。担当教員自身も問題点を把握しており、今後専任教員とも話し合いを続け、改善していくことに同意した。

②成績分布及び受講者数

外国語科目の総合的な成績分布では偏りは見られなかったが、教務・共通教育部会から下記の点について確認が求められた。

- 1) 看護学部のライティングとオーラルコミュニケーションⅠに「不可」の学生が 5 名以上いた。
- 2) 言語別・科目別で差異が見られ、「英語Ⅳ-(1)」、「中国語Ⅰ-(1)」は、S の割合が他の外国語と比較すると多く、2/3 以上である。

基盤教育センター会議にて確認したところ、下記の回答が得られた。

- 1) 看護学部では 1 学年に 90 名以上在籍していることから、90 名中 5～6 名の「不可」に関しては、特に問題はないと判断された。
- 2) 「英語Ⅳ-(1)」では、公共と形成が使用したテキストの難易度が少し低かったこと、また福祉学科では専門性の高い「福祉英語」を指導しているため、学生が専門に特化した内容であったことから真剣に講義や学習に取り組んだ結果、S の割合が多くなったが、何らかの改善が必要であると考えられる。「中国語Ⅰ-(1)」に関しては、中国語の導入部分を指導し、基本的なこ

とが習得できれば目標に達することが出来るため、問題ないと結論付けられた。

2. 2021年度レポート対応プランの結果

①オーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱについては、担当教員が英語母語話者で学生とのコミュニケーションが全て英語でなされるため、成績評価基準についての説明は特に明確に行い、学生の発表においては公平な機会を与えるよう確認して指導していく。

②Introduction to Studying in English の受講者数増加に向けた対応としては、2022年度より両学部生が受講しやすい時間帯に時間割を調整し、新学期のオリエンテーションにおいて科目の紹介を行う。

①について、常勤教員が担当教員に状況確認を行い、改善したとの報告があった。しかし、コミュニケーションが全て英語でなされるため、学生との意思疎通が十分でないことが分かった。

②Introduction to Studying in English については、時間割は前年度と同じ曜日であったが、今年度の受講生は9名と増加していた。

3. 対応プラン

①オーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱについては、評価に不公平さを感じる学生がいることから、学生に対して分かり易い英語で成績評価基準について説明を明確に行い、発表においては公平な機会を与え、課題についても公平に評価をするよう確認して指導していく。シラバスについても、授業内容や評価基準を詳細に明記するよう指導していく。

②Introduction to Studying in English については、2020年度の実受講生は1名、2021年度は2名であったが、同曜日（水曜日2限）に実施した2022年度は9名と増加していた。年度によって受講者数が異なることから、新学期のオリエンテーションにおいて科目の紹介を行う。

添付資料

- ・受講者数及び成績結果状況報告

2022年9月5日

基盤教育センター殿

教務共通教育部会長

上野 行良

全学共通科目「外国語科目」の受講者数及び成績結果状況報告

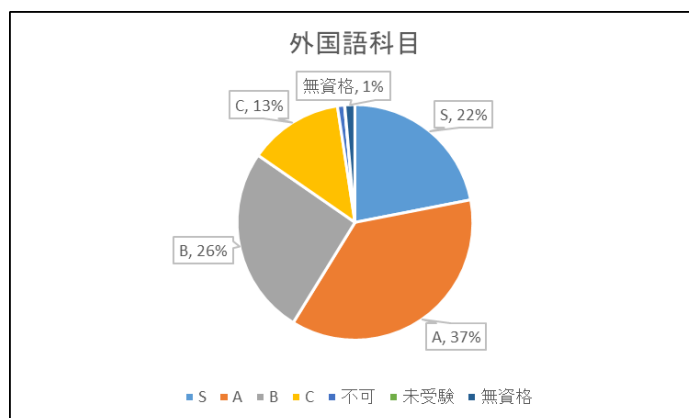
2021年度全学共通科目の外国語科目の受講者数及び成績結果をお知らせ致します。

結果について

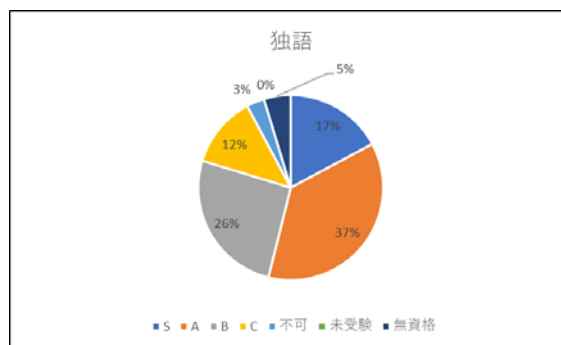
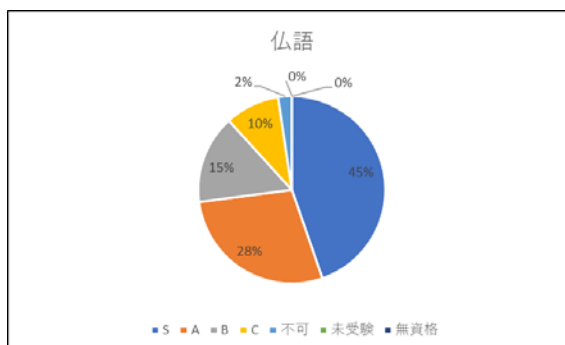
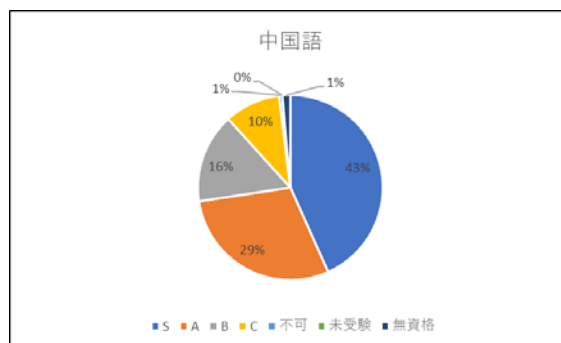
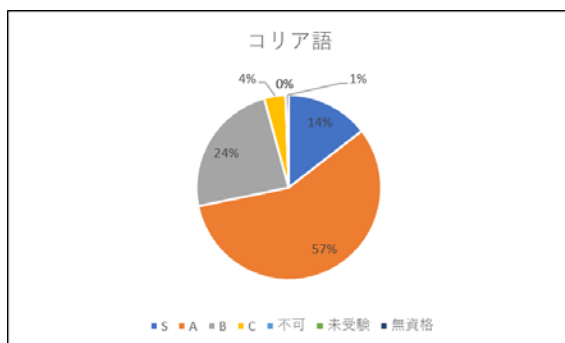
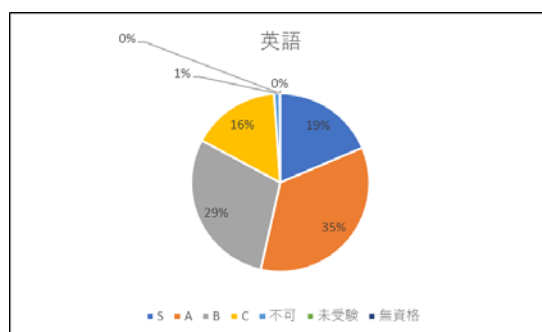
1. ライティングとオーラルコミュニケーションⅠに「不可」の学生が5名以上いました。他の外国語よりも多いようでした。ご確認の上、状況を把握してください。
2. 「英語Ⅳ-(1)」、「中国語Ⅰ-(1)」は、Sの割合が2/3以上でした。また、成績SまたはAの割合が7割以上の科目は以下の5科目です。
「英語Ⅱ-(1)」、「英語Ⅳ-(1)」、「中国語Ⅰ(1)」、「仏語Ⅰ-(1),(2)」、「仏語Ⅱ-(1)」
評価方法や成績評価方針について確認をしてください。
3. 外国語科目の総合的な成績分布では偏りは見られませんが、言語別・科目別では差異が見られ、特に英語科目間に偏りがありました。上記3のようにS評価の割合が高い科目（英語Ⅳ）がある点と、英語Ⅰでは担当教員による成績分布の違いが見られる点が目立ちました。評価方法や成績評価方針について基準を明確にしてください。

*上記の成績結果に問題がないかを確認し、問題がない場合はこれで妥当であることを説明できるようにしてください。また強化あるいは変更した方が良い点がある場合は、具体的な対策を立ててください。

外国語科目全体



言語別



各授業の成績分布

